



アートで防災を楽しく！産官学連携により、 新しいアプローチで防災課題の解決に取り組みます

横浜市、慶應義塾大学、Tsunashima サスティナブル・スマートタウン まちづくり運営協議会（以下、TSST まちづくり運営協議会）の3者は、横浜市の防災課題の解決（災害情報を全ての市民に届けることや、災害情報に基づいて適切な避難行動をとることなど）及び防災DXの推進に向けた産官学連携の取組として、「防災×市民科学（※）×アート」による防災意識向上プログラム及び支援デジタルツールの開発」をテーマに研究を行っています。この取組により、市民の皆様が楽しく防災意識や知識の向上ができるような防災活動の開発を目指します。

今後も防災課題の解決及び防災DXの推進に向けて、引き続き3者で連携して本研究に取り組んでいきます。

（※）研究者等の専門家と市民が協力して行う市民参加型のプロジェクト

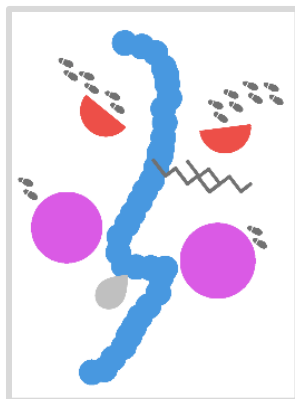
1. 研究テーマ「防災×市民科学×アートによる防災意識向上プログラム 及び支援デジタルツールの開発」について

(1) 概要

防災への興味・関心の度合いに関係なく、誰でも楽しみながら防災意識や知識を向上できる取組として、アートを活用した防災活動の研究をしています。

また、気軽にアート制作・鑑賞が行えるよう、スマートフォンやタブレット端末等でアート制作・鑑賞ができるデジタルツールの開発にも取り組んでいます。

● 作品例



⇒ 作品例では、河川の形を人の鼻に見立て、浸水想定がある地域全体を怒った顔で、河川のカーブ部の先の特に越水しやすい箇所をピンク色の頬で表現。

⇒ アートの制作や鑑賞（作品に込められたメッセージの読み解き）を通して、防災意識や知識の向上を図る

裏面あり

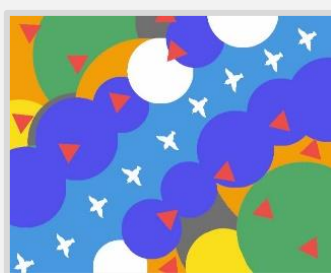


(2) アート制作の取組事例

ツールの試作品を使ったワークショップを実施し、市民の方にも実際にご利用いただきました。



①ハザードマップから地域の災害危険性を確認し、アート作品にする地域を選定する。



②選定した地域の危険性やとるべき行動等をアートで表現する。



③伝えたいメッセージなどを添えて完成させる。
ワークショップでは、グループ同士での発表を通して、作品の鑑賞やメッセージの読み解きも行った。

2. 今後の取組について

防災課題の解決及び防災DXの推進に向け、防災を考えるきっかけとして、より多くの市民の皆様にも本取組で開発したデジタルツール等をお使いいただけるよう、今後も引き続き3者で連携し、社会実証を重ねながら取り組んでいきます。

【参考】プロジェクトの役割分担

横浜市	プロジェクト管理や防災に関する情報提供、地域住民との窓口等
慶應義塾大学	研究テーマの決定、研究・検証の実施等
TSST まちづくり運営協議会	技術的支援や協議会パートナー企業との窓口等

その他詳細については、市ウェブサイトからもご確認いただけます。

市ウェブサイト「産官学連携での防災行政の課題解決に向けたプロジェクト」▶



お問合せ先

(全般に関して) 総務局緊急対策課システム担当課長 可児 章 Tel 045-671-2143
(研究内容に関して) 慶應義塾大学理工学部 教授 小檜山 雅之 Tel 045-566-1711
(Tsunashima サステイナブル・スマートタウン まちづくり運営協議会に関して)
Tsunashima サステイナブル・スマートタウン まちづくり運営協議会
Mail tsst_council@tsunashimasst.com



GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷

